

令和6年8月27日(火)
内子分庁3階大会議室

内子町部活動地域移行推進連絡協議会(第3回)会議録

内子町教育委員会

挨拶 委員長

第3回の協議会を開催できること感謝いたします。前回、えひめ広域スポーツセンターの方の説明もあり、疑問点や決めていかなければいけないことが見えてきたと思います。今回は、拠点校部活動についてと地域クラブ活動について、協議いただきたいと思います。まず意見を聞かせていただきたく思います。意見を出し合いながら協議を進めていきたいと思います。

◆協議1 拠点校部活動現状報告及び確認事項について

事務局 資料により一括説明。

(ア) 部活動変更希望と部活動の再編について

委員長 ソフトボール部の人数が少なくなっている。この段階で、小学生のアンケートをとって、今後どうするか決めるということによいか。ソフトボールは9人必要という現実的な問題はある。

委員 以前は、大瀬中学校では男子は野球部、女子はバレー部しかなく、部活動紹介はなかった。アンケートもいいと思うが、部活動紹介などはあるのか。

委員長 新1年生が、拠点校部活動を選ぶ段階で、部活動紹介はあったと思うが。

事務局 2月に、入学前の学校紹介と部活動紹介を兼ねて行った。見学希望者についてはバスで移動して行った。来年度も必要と考えている。

委員長 アンケートは今年で、部活動紹介は2月というタイミングがどうなのか。

委員 アンケートは、子供が知らない競技については答えづらいと思う。アンケートで決めてしまうのは怖い。

委員長 今年中にアンケートが必要なのか、年が明けてからではよくないのか。

事務局 年が明けてから決めることではある。ただ昨年も9～10月にアンケートをとり、参考としながら準備を進めた。

委員長 参考のためにアンケートをとらせていただきたいということ。

委員 ただ、蓋を開けたら活動してないということもある。それで総体に出られなかったという事例もある。アンケートに、女子ソフトボール部を入れないほうがいいように思う。

委員 ソフトボールをしている人は、ある程度、やりそうな人を把握しているのではないか。

委員 アンケートを取るとき、第1希望から第3希望までとるのだったら、ソフトボールが少なくなっても、第3希望までで意思表示はできるので構わないと思う。

委員長 アンケートは今後のことを考える上で必要ということ。
事務局 前段階として、どのような部活があるのか知る時期があってもよいと思う。
委員長 廃部になるかもしれないが、アンケートに入れさせてもらうということかどうか。アンケートを実施することについてはよいか。
委 員 よい。

(イ) チームの名称（基本原則かB案を検討か）

委員長 チームの名称について、協議したい。
委 員 ユニフォームにも影響してくるのではないか。
事務局 ユニフォームは現在のものを使用で大丈夫と聞いている。競技によって細かいきまりがあるが、新調するほどまでは必要ない。
委 員 合同部活動のチームでは、それぞれのユニフォームでよい。接触するものについては同じもの、それ以外はゼッケンでよいなど競技によって決まりがあるが、ユニフォームの問題はクリアできる。
委員長 現行のきまりでは拠点校の学校名となるということ。生徒の意見は聞いたことはあるか。
事務局 自分の学校名が使えないのか、という保護者の声は聞いたことがある。
委 員 慣れていかないといけないという時期だと思う。優勝して賞状をもらうときに違う学校名で名前を呼ばれるということも、今後乗り越えていかなければならないと思う。
委員長 拠点校部活動では、ある程度仕方ない？
委 員 B案（内子連合、内子北連合、内子南連合など）ではできないのか。
委員長 B案も不可能ではないが、変更手続きが必要。現行のままだとA案（拠点校の学校名）となる。
委 員 中学校体育連盟に決まりがあると思われる。
事務局 複数の学校の人数が同じくらいの場合が生じたため、この問題が出てきている。拠点校の人数が多く、対象校の人数が少ない場合は、拠点校名も受け入れやすい。例外をつくると、全て見直しになる。中体連のいう拠点校の意味合いの名称が進めやすい現状がある。ただ、中体連も拠点校については教育委員会の要項で決めることも可能な場合もあると柔軟になってきてはいる。
委 員 拠点校というのは、施設設備で決まっているという認識でよいか。
事務局 昨年拠点校の学校をどうするかこの協議会で決めた。練習場所・施設を考慮した点が一番大きい。あとは専門性のある顧問の先生などで決めた。要項では、対象校が拠点校に申し込んで実施するとなっており、今手続きを進めている。
委 員 学校の施設を使っているということだが、地域クラブにするなら、学校名にこだわる必要はないのではないか。
委員長 今のところ、学校拠点の部活動なので、その必要性が生じるということか。
事務局 新人戦の申込みの関係で、今日決定しておきたい。
委 員 拠点校部活動がいつまで続くかによる。基本を「内子」にしておいて、内子に「五十崎」「小田」「大瀬」を張り付けるなど、融通性のある方法でもいいのではない

か。五十崎が単独校でする場合は違うのかなと思うが、年によって人数が左右するので。

事務局 今決められている拠点校は今後変更しないことになっている。地域クラブを想定している令和8年の新人戦以降は、いろいろと案を伺いながらしっかりと内子としてのチーム名を決められたらよいと思っている。

委 員 完全に移行したときはチーム名を決めて、ユニフォームを作るなどお金を使う必要があると思うが、今は新たにお金をかけなくても今あるもので流用できる。過渡期の段階で使うより、あるもので行うのがよいと思う。令和8年度になって、チーム名を決めて使うのがよいと思う。

委員長 拠点校の間は、チーム名を拠点校の名前でということでよいか。地域移行が進めばチーム名も重要になってくると思うが、今はとりあえずの段階と捉えてよいか。

委 員 よい。

(ウ) P T A会費及び部活動後援会費

委員長 P T A会費について、11 月までに協議を進めたいという説明であった。P T A会費と部活動費を切り離し、町内共通のものとしたいということであった。

委 員 五十崎中、内子中、大瀬中、小田中は、ばらばらなのか。

委 員 ばらばらである。

委 員 その中から使っているお金もばらばらなのか。

委 員 学校ごとに違う。

委員長 ばらばらの状態を町内で統一して平等にしたい。P T A費と別にした場合の部活動の費用については議論が必要であると思う。

事務局 それを議論していかなければならない。まずは、部活動費をP T A会費から切り離すようにして、案を出したい。

委 員 学校ごとにP T A会費が違っているので、本校の場合は、他校から転校してきた人が、金額の違いに驚いたということがある。他3校は、地域から支援を受けて運営している。P T Aから切り離して必要な経費を算出してというのが温度差が予想される。保護者の理解が必要。各学校のP T Aの集まりで情報を出して、4校のP T Aがどのような意見を持って町P T A連合会に望むのかということが大事。

委 員 今後学校部活動の2年間のことであるが、令和8年以降の地域クラブのことでもある。学校部活動の間については、地域からの援助を残すのがありがたい。地域クラブでクラブを自分が選択するようになったときは、受益者負担が増えていくことも想定していないといけない。

事務局 経費の話をP T Aで協議いただくことで、地域クラブの受益者負担の参考になると思う。イメージを持って頂く機会になると思う。

委員長 地域移行のステップとしてこのような形を取りたい。いずれにしても、平たくしていかなければいけない。

委 員 活動している人がいれば、どのくらいお金がかかるのか分かるが、活動している人が身近にいないければ、部活動に入った後に、必要なお金に驚くこともあると思

う。入る前に説明が必要と思う。

事務局 保護者が聞いていないことによる不安感、中学校のイメージがわからないなど意見がある。丁寧に説明したいと思う。

委員 それぞれの部活でどれくらいというデータはあったと思うが。

事務局 保護者には共有していない。

委員 統一するのか、部活動によって金額を変えるのか。

事務局 地域振興費の考え方、保護者会費の考え方をどう結び付けるかという難しさがあると感じている。できれば統一感があったほうがよいと感じている。

委員 どの部活動に入っても、基本的な会費＋部活動ごとの費用というようになるのか。

事務局 そういった形もあると思う。現状を見ると、競技ごとの金額には差がある。

委員 現状ではばらばらで、固定はしていないということによいか。

事務局 はい。

委員 同じ部活をしていても学校ごとにも違う。種目によっては個人負担した方がよい費用、チームとして負担したほうがよい費用がある。登録費、大会の参加費用などがある。その他、例えば、吹奏楽で楽器を修理するとなると何十万円とかかる。保護者だけでは、部活動ができないことが出てくる。現状では、地域からの支援で受益者負担が減っているので、地域支援がなくなるとかなり厳しいと思う。

委員長 P T A費から切り離して別の考えをもつということはよいか。また、どのような整理の仕方にするのかについては、次回までに事務局でまとめて考えるということによいか。

委員 よい。

◆協議2 地域クラブ活動の運営について

事務局 資料により説明。

委員 任意団体ということについて。部活動の地域移行は、子供が減ってきて選択ができなくなったこと、そして先生の働き方改革のためという理由があると思う。拠点校部活動で、前者は解決してきたと思う。後者は地域の人材活用などがあると思う。なぜ任意団体なのか。町内には既存の団体もある。これだけの予算をかけて外部委託するのか。まず既存の団体の指導者にお願いをしないのか。それがだめだったときの任意団体ではないのか。地域の人が子どもたちを見てくれる。もしかしたら、子供も地域の会に出てくれるかもしれない。それが地域移行、地域循環ではないのか。

事務局 新規の部活動を設置する際、男子卓球部、総合スポーツ部、総合文化・科学部など、地域の方に入っている。その中で、指導員の方は、責任の所在など、どういった関わりができるのかという戸惑いがあった。今は学校という母体があるので、先生方と取り組んでいただいとうまくいっている。母体となる団体がしっかりしたものが必要で、そのための任意団体が必要と考えている。

委員長 学校部活動の中で外部人材が活用できるのがよいが、文科省は、外部にもっていかうとしている流れがある。国のまずは休日からという考え方はあるが、内子町

では、平日も含めて一度に進めようとしている。任意団体を設立すると新しいものになる。ただし、これは、単なる部活動の延長ではないと考えている。それでは進まないと考えている。

委 員 新しいものでよいが、それを町でやれないのかと思う。

委員長 ゆくゆくは、子どもから大人までがみんな関わりながらやっていくというものを
目指すということが必要ではないか。

委 員 そこまでするというのが分からない。活動する場がないとかいうわけではない。
中学生向けだけで考えていたのでよいと思う。受益者負担がもし年間5～6万円
かかるのであれば、内子を離れて、東予、中予までいくとなるかもしれない。

委 員 ランニングコストが高いと思う。部活はやめると親は思うかもしれない。すべて
を受益者負担にすると内子町から子供がいなくなるのではないかと恐れる。医
療費はただというよさのある内子町でも、この負担はしんどいと思う。ただ、地
域おこし協力隊を活用するのはよいと思う。

委員長 これは、仮に全額を各家庭に求めた場合の想定であり、現実それはないと思う。
委 員 ただ、これだけ費用はかかるということが現実としてある。いくらか町が負担す
るのではないかとと思うが。また、子どもたちに関わっていく指導者は、研修を積
んでしっかりした状態で入ってもらう必要がある。

委員長 今も実は費用はかかっている。それを先生がボランティアで行っている状態で、
先生の超過勤務に頼っているということである。それが表に出ていないだけ。

委 員 国が示す地域移行は無理があり、矛盾がある。今の部活動は教育の一環である。
部活動の意義は、地域移行してもつなげてほしいと思う。悩んだり切磋琢磨した
り、地域移行することにより、意義がなくなるのではないかと心配している。良
い部分を引き継いで子供を育てていくようにならないといけない。運営方法につ
いて、もし任意団体にするとそういった教育的配慮は薄れていくのではと思う。
教育委員会でもやってもらってはどうか。

委 員 費用はかかるものだと思っている。受益者負担でというのは賛成派ではある。民
間団体でも、教育的配慮はしているし、そういった指導も大切にしている。団体
としてのテーマを示すということが大事。前回も、受益者負担を考えながら活動
の方向性をどう告知するのが大事という意見を投げかけた。

委員長 民間のよさもあるということだと思う。

委 員 少子化対策を国が進めることによって、子育てに関してお金の心配をあんまりす
る必要がなくなっているというところを聞いている。民間になると委員が述べたような懸
念も出てくると思う。世代によって親の考えも違う。すり合わせが難しい。他の
市町のクラブチームにいくという人が増えるとクラブ活動は成り立たない。そう
いった説明はよく考える必要がある。

委 員 教員が兼職兼業に関わっても、学校から離れるとなると、他のクラブばかりに行
ってしまうのではないか。

委 員 みなさんが思われる活動の意義は勝利至上主義なのだろうか。

委員長 勝利至上主義、人格形成、体力向上などがあると思われるが、みなさんにとって

部活動はどういう意義があるのか。

委員 勝利至上主義でお願いしてきた。ある程度勝つ喜びがないと続けられないと思ってきた。勝利至上主義で教育ができないかというと思う。人格形成もできていると思う。

委員 中学校まではスポーツをさせたいと思っている。小学校は6年まで、中学校は3年間、続けることを大切にしたい。自分が勝ちたいと思ったら、一生懸命努力するという考え方が大切だと思う。

委員 軟式野球部は、拠点校2校に分けなくてよいと思う。レギュラーになれるかなれないかは、努力によるものと思う。競い合うことが必要。30人くらいいれば、強くなるのではないかと。競争でレギュラーを勝ち取ることも必要。揉まれて団体を知ること必要。

委員 勝ったら楽しい。勝利を味わってほしい。ただ、過度な指導はいらない。

委員長 保護者によっても、それぞれ考え方が違うと思う。勝利至上主義とか、考えや期待も違う。ただ、大人の都合で子どもたちに過度に要求はしたくない。

委員 教員の立場から、部活動を上手に指導していると思われる指導者は、負けたことを教育に生かせる人だと思う。そんな指導者は、バランスが取れた指導ができている。

アドバイザー 勝利至上主義について考えたときに、学校で部活動を行う場合は、行き過ぎた先生については、校長先生、教頭先生に相談に行く。地域に移行すると、どのくらいの活動を行っていくのか、コントロールすることが難しくなる。やはり、地域クラブとしてしっかりした理念が必要になると思われる。クラブの全体を統括している人が中心となった組織づくりが必要。地域移行は、国の大きな方針として動き出している。違和感がある方もいると思うが一步踏み出す時なのかと思う。内子町としてどうするか、基本的な方針が受け入れられることが大切である。

委員長 議論が深まったと思う。まだ協議しなければいけない点があったと思う。それぞれが持ち帰って、それぞれの団体の中で議論を深めていってもらえたらと思う。

挨拶 副委員長

熱心なご討議をありがとうございます。方向性を決めるということとても重いことを話していただいていると思います。全国の大会を見ていると出場しているチームも形態は多様化してきていることを感じました。新人戦も迫り、学校は地域移行と並行で進んでいる状態です。今後も議論の積み重ねによってよりよいものを見出していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。